

造林新植予定地で野生動物の自動撮影をしています

日 時： 令和6年8月7日（水）から

場 所： 東かがわ市水主

主 催： 香川県森林センター、香川県東部林業事務所

以前からノウサギやサル、イノシシによる造林地の被害は確認されていましたが、近年は香川県でもニホンジカによる苗木の食害などが報告されるようになりました。植えた苗木を無事に大きく育てることは、木材生産だけでなく、土砂災害の防止や生態系の維持にとっても重要です。

そこで、野生動物の実態を把握することで、効率的かつ効果的な獣害被害対策の実施に役立てようと、4台の自動撮影カメラを造林新植予定地の獣道に設置しています。



① カメラを設置しているのは、令和6年秋か令和7年春にヒノキを植える予定の造林地です。



② 周囲の枝葉が写り込まず、野生動物が触れにくい位置にカメラを取りつけています。



③ センサーが動物の熱を感知して、自動で撮影する仕組みです。



④ カメラのカバーをあけて、写っている画像や映像を確認している様子です。



⑤ ソヨゴやネジキ、ウバメガシなどのひこばえを食べているシカが写っていました。



⑥ このまま撮影を続けるので、電池と記録用のSDカードを新しい物に入れ替えます。



⑦ SDカードに記録された画像や映像を、パソコンの画面で確認している様子です。



⑧ 8月7日からの14日間で映っていた野生動物は、シカ・サル・イノシシ・ウサギ・タヌキでした。



⑨ 野生動物が出現する時間帯や行動の特性を把握して、獣害被害対策に役立てる予定です。